

田原本町議会が 十津川村の状況を視察



▲土砂崩れで寸断された道路



▲被害の大きかった野尻地区を視察する議員 ▲義援金を手渡す松本議長（写真左）

3月28日、田原本町議会は、昨年の8月末に上陸した台風12号で被害を受けた吉野郡十津川村の被害状況を視察しました。

今回の視察は、本町議会の松本宗弘議長が会長を務める奈良県町村議会議長会と共催で実施したものです。人的被害の大きかった同村の被害状況と、被災によるダメージから回復しきれていない住民の生活や産業の振興に対し、町議会として支援の気持ちを伝えるために、所用で参加できなかった3人を除く議会議員13人と関係職員が参加しました。

十津川村役場では、説明に先立って、松本議長から激励の言葉とともに、議会議員一同からの義援金が更谷慈禧村長に手渡され、更谷村長や中南太一議長が感謝の言葉を述べました。

参加した議員は、国道168号線沿いの主な被害現場や村役場で、担当職員から被害状況の説明を受けました。今回の台風では、基幹道路である国道168号線の被害、情報不足と孤立、土砂ダムや多数の山腹崩壊の発生、警戒区域の設定などが問題点として挙げられ、災害発生時の混乱の中で困難な状況対応が求められたことをうかがい知ることができました。

また、3世帯11人が被災し、人的被害

の大きかった野尻地区の住宅が押し流された現場を視察。対岸の山が崩れ、流れが変わった河川に一瞬にして尊い命が奪われた住宅跡で手を合わせる議員もあり、自然の脅威をまざまざと見せつけられた視察となりました。

町議会では、「面積の96%を山林が占め、十津川がV字渓谷をなして歪流する同村と本町がおかれる自然環境は違う」というものの、情報不足やライフラインのストップ、災害後のまちづくりといった課題に対し、各議員が共通認識を持つことができた」などの意見が上がったことから、これらの問題にどう対応していくかについての検討に向け、意義のある視察になったと考えています。



▲台風12号による被害状況の説明を受ける